

# 変わる日本の「暮らし」と「まち」

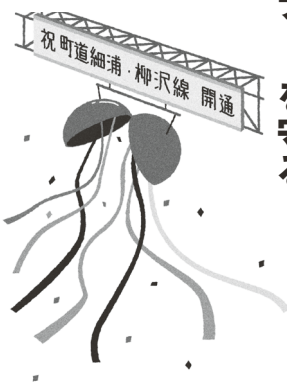
illustration: Shigeyuki Sakata

## 町民の安全と「コミュニティ」を守る 命の道路が完成

岩手県山田町  
震災復興事業  
(2013年・平成25年)

阿部民子

text by Ranko Abe



盛岡駅から車で約2時間半の岩手県山田町。カキやホタテの養殖が盛んなこのまちも、東日本大震災では、津波とその後が発生した大火災で大きな被害を受けた。

2016年の9月には、天皇、皇后両陛下が同町をご訪問。「山田町ふれあいセンター」や町役場を訪れ、地元の中生らと交流、復興が進む様子を視察された。

訪問当時の映像がテレビで放送された、平成最後の天皇誕生日。山田町で、かねてより工事が進められてきた町道細浦・柳沢線の全

線開通を祝した式典が開かれた。式典会場となったのは、今回の道路完成で開通する桜山トンネル入口前。真新しい道路の上にパイプ椅子が並べられ、スーツ姿の関係者や作業着をまとった工事関係者、防寒服の町民ら約150名が参列した。

式典では、佐藤信逸町長が「いまから7年と9ヶ月前のその日、山田は悲嘆にくれる日々が続いていました。今日、町民の悲願であった、大きな安心を提供できる道路が開通します。関係者など多く

の方々に深く感謝を申し上げたい」とあいさつ。子どもたちも交えた、地元伝統の八幡大神楽演舞がにぎにぎしく華を添えた。



悲願のトンネル開通に喜ぶ山田町の人たち

れやかに通過していった。

### 40年来の町民悲願の道路

太平洋に開かれた山田湾沿いに広がる山田町。その交通の大動脈が、海沿いを走る国道45号だ。ところが、東日本大震災による津波で国道は寸断。山田町は、救助も物資もマスコミも入ることができない陸の孤島と化した。

その教訓から浮上したのが、約40年前の都市計画で決定されて以来、計画が進んでいなかった町道細浦・柳沢線の整備だ。国道45号と並行し、浸水被害の可能性が高い区域を通らず内陸を走る道路は、高台の団地や防災拠点への経路として、また災害時の緊急輸送や避難ルートとして、災害に強いまちづくりに不可欠な、町民の悲願でもあった。

「この道路の延長上の高台には、消防署や警察署、県立病院が集中する公共防災エリアがあり、緊急時には津波や冠水の心配がなくなります。また、沿岸を經由して、内陸の豊間根地区にも防災救急車両が行けるようになります。町民の安全のためにも非常に有用な、

まさに命の道路です」と、佐藤町長は力を込める。

式典に参加していた、山田町商工会の阿部幸榮会長は、「この道路が開通したことで、以前は迂回しなければ来られなかったまちの北側からも、中心部である南側に来られるし、住宅地とのアクセスもよくなります。高速に乗って宮古や釜石にも出やすくなります。便利になればなるほど、外に買い物に行く人が増える可能性があります。ですが、商工会会長としては、滞留人口を増やして購買力を高め、まちの活性化に努めたいですね」と期待を語る。

### 災害に強い新しいまちに

震災後、山田町では高台住宅地の整備や既存市街地の高上げ、災害公営住宅の建設、道路の整備など、災害に強い新しいまちづくりを着々と進めてきた。URは培ったまちづくりのノウハウと経験を活かし、未曾有の災害に戸惑うまちの復興のパートナーを務めている。今回開通した桜山トンネルを含む町道細浦・柳沢線の整備工事も、URが受託した復興事業の一環だ。

「お正月に間に合わせたいという町長の意向もあって、工事は時間との勝負でした。雪が降ったら工事が遅れると心配しましたが、天も恵まれ、無事今日の日を迎えることができました」と安堵の表情を見せるのは、UR山田復興支援事務所長の才田浩だ。山田町では、この細浦・柳沢線を含め、国道45号と境田南線、織笠東西線等の5路線の関連道路事業もURが受託。段階的な大規模工事を施工業者等による共同企業体一括発注するCM方式を採用し、道路に付随した山田第三団地の宅地整備なども一体化して進めることで、迅速かつ効率的な工事が実現したという。

「3年前に赴任した頃は、まだがれき撤去や仮設店舗の建設中で、ほんとうにできるのか不安になったこともありましたが、被災者の方から『URにお任せするの』で、工事の騒音やほこりは我慢する。早く安全なまちをつくってほしい」との言葉を頂き、町とUR、CM施工業者と三位一体になって進めてきました。山田町のUR受託事業もあとは低地部の宅地整備

を残すのみ。感謝の言葉を聞くたびに、改めて復興事業のやりがいと達成感を感じています」

式典終了後、いち早く復興が進むまちの中心部へ行ってみた。大型スーパーや飲食店、町の交流施設などが建ち並び、駐車場は車でいっぱい。すぐ隣には町からの要請でURが建設した6階建て、146戸の災害公営住宅がそびえる。休日買い物を楽しむ家族連れでにぎわう様子は、この地面が平均3mほど高上げされたことが嘘のように、自然でのどかな光景だ。

エリアの中心には、真新しいUR山田線（開通時に三陸鉄道に移管予定）陸中山田駅も見える。江戸時代にオランダ船が漂着した山田町のシンボル、オランダ島にちなみ、風車を掲げたデザインがかわいらしい。3月には、この新駅を通り、大船渡（盛から久慈までをつなぐ）アス線がいよいよ開通する。期待に満ちた春が、もうすぐやってくる。

街に、ルネッサンス

UR 都市機構

一日も早い東北の復興へ 全力で取り組んでいます

【企画制作】新潮社